

令和2年度 第2回

社会福祉士養成学科・養成科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和3年3月25日（木）15:30～17:00

場所：zoom形式

参加者名

| | | |
|----|-------|----------------------------------|
| 委員 | 藤井 亘 | (東京都自立支援協議会 委員) |
| 委員 | 小田 智雄 | (社会福祉法人やまて福社会 理事) |
| 委員 | 佐藤 初美 | (NPO 法人 10代・20代のにんしん SOS 新宿 理事長) |
| 教員 | 秋山 雅代 | (社会福祉士養成学科 学科長) |
| 教員 | 片桐 正善 | (社会福祉士養成科 科長) |
| 職員 | 萬崎 保志 | (教務課 次長) |
| 職員 | 板野 弘明 | (教務課) |
| 職員 | 松木 健太 | (教務課) |

1. はじめに

萬崎より前回会議の振り返り、及び今後の議題となるポイントの説明があった。

- ①今後の実習について
- ②社会福祉士や業界職域の理解をどのように進めていくか。
- ③入職に際し、スムーズに業務に入っていく為に、何か学校でできることはあるか。
- ④卒後ネットワークの必要性

今回は時間の都合上、①と④に重点を置き、意見をいただく。

2. 検討事項

①今後の実習について

【学内実習レポートを振り返って】

昨年度は外部実習に変わり学内実習を行った。通常の実習と異なり、1人の学生が多くの施設の職員からのお話をまとめて聞くことができたことで、学生から一定の評価を得た。今回は学内実習にもご協力いただいた委員の方々へ、学生の記載した学内実習レポートをもとに感想やご意見をいただいた。

<委員からの主な意見>

藤井)

話している内容をそのまま記入している方もいれば、そこから深く考察して記入する人、

自分の意見を記入する人もいて、中には心配になるような方もいた。本当に学生層が様々であると感じた。

現場に出て感じるのは、つながることの重要性。相談業務を目指している方も多いが、相談業務になると、様々な困難が生まれる為、誰かと話しをしたり、相談したり、経験豊富な先輩から意見をいただいたりすることも重要。できれば、学校の中でつながった方々が、その後もネットワークを形成していただけると良いと感じる。また、そのネットワークを学校としてもフォローできるとより良いと感じた。

佐藤)

全体の感想としては私が話をしたことに対して、伝えたいところは伝わったかなと思うが、もう少し丁寧に話しをすればよかったと思う部分もあり、自分自身の反省にもなった。また、このままの姿勢でソーシャルワーカーとしてスタートすると、即座にシャッターを下ろされてしまうのではないかと思うような心配な感想もあった。

小田)

学生の皆さん、すごく丁寧に感想を書いていただいた。私の伝えたい内容について、全体としてぶれずに伝わっていたと感じた。また、事業として活動していることを学生の皆様が文章として書いていただいたことで、私たちも勉強になった。

<学科教員からの意見>

片桐)

社会人経験を持つ学生などは動画を見て鼓舞され、工夫して書いた学生もいた。一方で少なからず誤った見解を持つ学生もいる。前回の話でも出たが、精神的な不安定さを抱える学生、また社会福祉士への誤った見解を持つ学生への早期段階でフォローアップが必要と感じた。また、フォロー層にだけ目を向けるのではなく、良い想いを持っている学生にはより現場のイメージを伝え、伸ばしていくことが重要になる。

卒業後スムーズに現場に入っていく為に、どのような手法を取っていくのか、また、卒後のネットワークをどのように作っていくか。ご意見をいただきながら考えていけたらと思っている。

【次年度の実習について】

<学科教員からの意見>

片桐)

令和3年度の実習受入れの状況がまだ見えないが、実習の受入れが困難となり、学内実習に代替をしなければならなくなった場合、レポートの形式変更などはあるかと思うが、同様の流れでの今年度作成した実習動画の使用は有効だと思う。また、実習でなくても、社会

福祉士のイメージ・理解という部分で、ぜひ使用していきたい。その際は、また別途個別にご相談させていただく。

【次年度学内実習となった場合の実習動画の改善について】

<委員からの主な意見>

藤井)

片桐先生との対談形式でお話しさせていただいたが、学生のレポートを見ても、伝えたいことは伝わっていて良かったと感じた。様々な観点から質問もいただき、じゃあこういった話しようという流れで話もでき、不便は感じなかった。

佐藤)

オンラインで講義形式話しをするより、学生の目線に立った質問をしていただいたため、学生にとっても分かりやすい動画となったのではないかと感じる。今後もそのまま使用してもらっても構わないし、同様の形式で機会があればお手伝いさせていただきたいと思う。

小田)

多岐に亘る支援をしている為、3名の支援員が参加し、日ごろ取り組んでいることなどを、お話しをさせていただいた。動画が長くなると学生も飽きてくるだろうし、気になってはいたが、学生のレポートを拝見し、少し安心した。逆に学生からこんなところが分からなかったなどの意見があれば、直したいなと考えていたが、あまり無かったので良かったのかなと思う。佐藤委員同様、そのまま使用いただいても良いし、また、取り直しの要望があれば協力したいと思う。

④卒業ネットワークの必要性

秋山教員、片桐教員より社会福祉士養成学科・養成科が運営している卒業生向けの研究会、ソーシャルワーク実践研究会について説明があった。卒業生の学びの場として基本的に2ヶ月に1回の開催を行っており、昨年度はコロナ騒動でほぼ1年の活動ができなかったと共有があった。

<委員からの主な意見>

佐藤)

zoomなどのオンラインでもつながれると、忙しくて学校には行けないという卒業生も参加できるようになるのではないかなと感じる。卒業生の中でも同級生同士はつながりがあると思うので、一人参加すると、そこから広がるのではないか。

藤井)

就職してしまうと、異なる分野(領域)の方々と、あまりつながりがなくなる。そのため、自分自身が携わっている分野だけでなく、他分野のことも学ぶことができ、更に他分野で活躍するソーシャルワーカーとつながりが持てるような環境があると良いと感じる。また、そういった場で自分自身の発表などを行うのは成長にもつながる。

小田)

卒業生の中には、定期的に何かに参加をしたいと思う方もいると思うので、そういった案内を郵送するなり、メールをお送りするなり、どのような形であれ告知をきちんと行い、周知することが大事だと感じる。

<学科教員からの意見>

片桐)

一昨年であれば研究会後に飲みに行く姿も見かけたため、つながりはできていると思う。ただそのつながりが、悩みの相談をするというようなレベルになっているかまではわからない。今後の課題。また、卒後のネットワークに関して、直接会うことにこだわりがあったが、今の時代を考えると、ご意見をいただいたとおりオンライン含め、チャレンジしていきたいと思う。

3. まとめ

- ・学内実習については現状ではまだ次年度の実施方法について不確定ではあるが、代替実習を余儀なくされた際、今年度の実習動画をどのように活用するのか、引き続き検討していく。
- ・卒業生との結びつきの一つとして、ソーシャルワーク実践研究会の告知、運用については、オンラインの活用も含め改めて検討していく。次回の会議には令和3年度の実施状況などを報告させていただきながら、またアイデアをいただく。
- ・また社会福祉士への誤った理解をもつ学生は早期にフォローし、フォロー層だけに注力するだけではなく、全体を引き上げていくことが重要。

4. おわりに

- ・令和3年度も7月頃に令和3年度1回目の会議を予定。また2回目の会議は年始を予定とする。